

# JASIS

## NEWS

# No. 39

2007/5/10

## 日本インテリア学会会報

### ■平成18年度を顧みて

会長 高橋鷹志（東京大学名誉教授）

会報（前号）の巻頭に、本来ならば次号のテーマである「新年度の活動に向けて」という見当違いの一文を寄稿したことを深くお詫びいたします。この課題について改めて私見を述べることをお許しください。

本年度は小原二郎名誉会長の日本建築学会大賞受賞によって幕を開けました。先生の御業績の大きさを新たに感じ入ると共に、会員諸氏と共に喜び申し上げます。このことに刺激された故か学会の諸活動も活性化した一年であったと思われまふ。以下、主だった学会活動の総括を記します。

#### 1) 大会・全体活動について

前報にも書いたことですが、加藤力大会実行委員長の下で運営された第18回大会は、見学会・懇親会・講演会・教育部会シンポジウム・研究発表会のいずれにおいても新しい発見を伴う充実した時間を体験することができました。また、懸案であった表彰制度の一つとして卒業作品の中からの優秀作品の選定が実現したことは大きな成果でした。優秀作品の公表時期について委員の間で意見の行き違いがあったのですが、選考経過の公表も含めて今後の検討課題であると思われまふ。

#### 2) 部会・研究活動について

研究部会活性化のための総会時におけるシンポジウム「部会報告」も二年目を迎えましたが、部会の存続や構

成メンバーの確認などの懸案が残されました。さらに横断的な研究会の初めての企画として「インテリア空間と家具」という主題の下に、美浜打瀬小学校の見学会と「学校用家具の現在と明日を考える」ことを議論するシンポジウムが実現し、大勢の参加者があり、成功裡に終了しました。

2000年から始まったAIDIA 学術大会は国際委員会の加藤力委員長のご尽力により、日本の立場を何とか保持しており（加藤氏は韓国ソウルでの第4回大会にも JASIS 代表として参加されました）、今後独立した委員会を設けるなどの対応策が必要とされます。

更に予てより企画されていた「インテリア学体系（仮称）」などの出版については特に進捗はなく、次年度以降へと積み残されました。

#### 3) 学会運営体制等について

新しい会員増強については、毎年その必要性が繰り返し話題になっていることですが、若手会員獲得に向けての具体策はないのでしょうか。皆様からの提案をよろしく願ひするものです。事務局を担当されている東京大学の西出和彦氏には超多忙の中、学会運営の円滑化に力添えを頂いていますが、今年度はこれまで問題となっていた各支部所属メンバーの整理・確認作業が進みました。運営委員会・研究部会についても所属メンバー確認を引き続き願ひしたい。

以上、平成18年度のまとめを記しましたが、新年度の総会の場でも、会員諸氏からの御意見などを戴ければ幸いです。

## ■平成19年度日本インテリア学会大会のご案内

大会委員長 建部謙治（愛知工業大学）

本年度の大会は、10月6日（土）～7日（日）に明治村にて開催が予定されており、建部謙治大会委員長（愛知工業大学）、松本直司実行委員長（名古屋工業大学）を中心に東海支部の多くの方のご尽力の下、大会準備は着々と進んでおります。

大会の行事としましては、6日には見学会（明治村およびその周辺）、理事会・懇親会が計画されています。また、7日には開会式、研究発表会（第四高等学校武道場）、講演会（聖ザビエル天主堂）、閉会式が計画されています。

これまでの大会とは一味違って、会場設定が非常にユニークになっておりますので、是非多くの会員の方のご参加をお待ちしております。なお、大会発表原稿の提出は例年より早くなるのが想定されますので、ご準備を早めをお願いいたします。

## ■全国高等学校インテリア科教育研究大会について

全国高等学校インテリア科教育研究会  
理事長 内藤秀康

全国高等学校インテリア科教育研究会は、発足以来44年の歴史と全国に会員校38校を擁し、高等学校のインテリア教育の発展と充実のために活動をしている研究会です。会員の学校が切磋琢磨しインテリア科全体のレベル向上に努めていますが、インテリア科及び工業高校の現実はたいへん厳しく、多いときには50校近くあった会員校が毎年減少しており、学校改革、社会構造の変化、実業高校離れなどの中、インテリア教育の充実と推進に向けて頑張っていくのが本会の使命であると考えます。

全国高等学校インテリア科教育研究大会はインテリア科教育推進のため、全国のインテリア科およびこれに準ずる学科、コース等の設置している高等学校の関係職員が一堂に会し、インテリア科教育の果たす役割と携わる者としての専門性を向上させ、今後のインテリア科教育の発展と充実を図ることを目的とした大会で、高校教員の他、企業や大学の賛助会員も参加しており、2年前の大阪大会では副会長の北浦かほる先生にもご出席いただきました。

インテリア学会の皆様方のご協力、ご支援に感謝いたしております。今後共よろしくお願い致します。

昨年度と今年度の大会について紹介いたします。

### ○平成18年度 第43回岐阜大会

- 1 当番校 岐阜県立高山工業高等学校
  - 2 期日 平成18年7月26日（水）～7月28日（金）
  - 3 会場 ひだホテルプラザ  
〒506-0009 岐阜県高山市花岡町2丁目60番地
- (1) 1日目：26日（水）協議会（14：30～17：00）  
参加者：17名
  - (2) 2日目：27日（木）開会行事、総会、講演、研究発表（10：00～17：00）  
参加者：70名
- 1 からくり屋台「匠龍台・射手童子」（からくり実演）
  - 2 総会
  - 3 講演  
（社）全国工業高等学校長協会 理事 堀口通安  
『これからの工業教育について』
  - 4 研究発表
- ① 広島県立宮島工業高等学校 神田浩二  
『木香館の取り組み ～産業財産権獲得の取り組みについて～』
  - ② 青森県立弘前工業高等学校 板垣常雄  
『実習指導書作成の試み』
  - ③ 沖縄県立浦添工業高等学校 仲間吉信  
『課題研究の取り組みと特色ある科づくりへの取組』
- 5 全体協議会  
大会テーマ  
「匠の技と心」～暮らしとインテリア～  
協議テーマ  
「インテリア科の指導内容について」
- (3) 3日目：28日（金）技術研修、講話、閉会行事  
（9：00～12：00）  
会場 飛騨産業株式会社
- 1 技術研修  
曲げ木工程（電子レンジでできる曲げ木）及びスギの圧縮加工
  - 2 飛騨の家具（ショールーム見学）
  - 3 講話「暮らしと家具」～匠と技～  
飛騨産業株式会社 代表取締役 岡田賛三

### ○平成19年度 第44回鹿児島大会

- 第44回全国高等学校インテリア科教育研究大会  
期日 平成19年8月1日（水）～8月3日（金）  
会場 鹿児島自治会館  
大会事務局校 鹿児島県立鹿児島工業高等学校

## ■「インテリア（学）大系・出版編集委員会（仮称）」報告

報告 湯本長伯（九州大学）

去る3月28日に行われた「インテリア（学）大系・出版編集委員会（仮称）」について報告します。この内容を受けて、「インテリアとは何か」という内外の疑問に応えるべく、まずは学会内で少し参加者の範囲を広げて、自由に議論してみても如何かと考えております。

### 1. 「インテリア（学）大系・出版編集委員会（仮称）」の経緯

これまででも、かなり長期的な取組みがありました。

第1次 平成15年9月10日（第1回WG）～平成16年3月22日（第2回公聴会）

第2次 平成19年3月28日（再開第1回WG／九州大学）～

### 2. 「今後のロードマップ（案）」

今回のワーキングでは、期限をある程度決めて一定の成果が出るように、ロードマップをあらかじめ策定しようと考えています。

4～6月（会報39号） 粗い章立て シンポジウム2007 or ラウンドテーブル

7～9月（会報40号） 項目洗い出し 粗い章立てラウンドテーブル（WG）

10～12月（会報41号） 大会発表 ラウンドテーブル（WG）

1～3月（会報42号） 章立て整理／執筆者決め シンポジウム200008 WG

### 3. メモ

[1] 定義 空間的（範囲）定義から人間中心定義へ

これまでの第一次ワーキングで、空間の位置ではなく、人間が発生させる空間という考え方の共有が強まり、何となく定着しつつあるように感じます。ただ、まだまだ色々な表現があり、「生活・インテリア空間」と呼ぼうという考えなど、定式化はこれからです。

現状の様々な考えられる表現を以下に列記しておきます。

インテリア空間＝人間を内包している空間

＝人間がその周囲に作り出している空間

（例えば宮殿の広間や避難所になった体育館では、人が居る所に空間が生じています）

（避難場所としての体育館の中でのインテリア空間で

は、パーティションの在り方が重要です。

もう一度、空間を限定するということはどういうことか？考察が必要です）

＝人間が「自分の延長（領域）」と感ずる空間

＝人間が人間として『人間の延長（領域）』と感ずる空間

（空間の対象投影まで考えると、人と人との関係とか、秩序の問題も大きくなります）

[2] 分野分け（カテゴリー、一律の定義と地域差・文化差などの考慮）

空間の捉え方そのものにも、既に地域差があり、背景には歴史的経緯もあります。生活空間史としての住居史の重要性も言うまでもありません。オープンプランの学校では空間の自由さに対して規律性が無く、例えば給食をどこで食べるのか？というような問題提起もありました。

以下に、キーワードをランダムリストします。

人体 動作 行動 心理 距離 作法・行動規範 着衣（衣食住） F F E

ハードとソフトに跨る概念 全体と部分

[3] インテリアの要素

インテリアを構成する要素を挙げて、考察することも重要です。人＋空間＋家具＋エレメント（照明等含む）で良いのかどうか？

[4] 章立て

おおまかに、次のような分け方から始めます。これまでのWGの議論から、総論・原理が中心になるかと思いますが、源流（歴史）を探ることも大事であると言えます。

①総論（捉え方） ②歴史 ③位置づけ（対周辺分野）  
キーワード

スケルトンとインフィル ユニバーサルスペースと限定空間 人間創出空間 床座と椅子座 和室と洋室

[5] インテリアのファクター・領域

領域、構成主体、行為・状態・物的存在・構築物、といったシステム分析の試み。領域についても、人体 単位動作 行動 集団 群衆 といったレイヤーの、掛け合わせで考えることも必要です。「人と空間で構成されている」ことは、確かなことのように思われます。

またそもそも、インテリア学の目的・構成とは何か？という考察も重要でしょう。

人間学か？生活（行為・行動）学・生活論か？空間学か？演出・作法（行動規範）学か？もしかすると、禅の教えやコーラン（内省的な生活と生活規範）とも関係が深いかも知れません。

### 4. 最後に

いずれにせよ、数回のWGで結論付けられるものでも

なく、今後もう少し議論の輪を広げて行くことを考え、学会内に広く呼び掛けて進めて行くことにしました。

併せて、学会内外にアンケート（インテリア学<科>の広がり）を実施する予定です。教育研究部会等とも連携して、進めさせて戴きたいと考えています。キーワードは、（くらし、生活、インテリア、住居、すまい、色彩、家具）等が考えられます。

今後の進展に、学会全体のご協力をお願いして報告と致します。

## ■第18回大会研究発表講評（続き）

### □計画（1）

001、002、005は各々発表後に質疑を行い、003、004については一連のテーマであるため続けて発表し、質疑の時間をまとめてとった。

001「住まいの絵本にみるインテリア表現のもつ意味」（北浦、藤野）日本と欧米の住まいの絵本の室内表現に焦点をあて、文化によるインテリアの扱いや室内空間への期待の違いを明らかにしようとする研究であり、装備や設備の表現、空間の意味を表現している欧米に対し、日本では、家の機能や日常生活空間としての表現が大半であるとの結論が導かれている。欧米での絵本に見られる断面的表現とドールハウス、集合住宅的生活との関連性、欧米内での違いや日本で発行されている本のみを研究対象としていること等に関して質疑があった。

文化の違いと絵本に反映されている室内表現からの住まいの思想・概念に関するより細やかな分析を期待したい。

002「子供部屋の認知について」（山田ほか）子供部屋が設置された後も親子同室寝が続く現状をふまえ、どのような過程を経て子供が子供部屋を自分のスペースとして捉えていくのかを、就寝環境の変化、部屋の設置時期と独立寝のズレに着目して分析し、就寝の有無や家具が大きな影響を与えていると結論づけている。

衣類との関連についての質疑があり、今回は取り上げていないということであったが、衣類の管理場所や着替えの場所も重要な要素と思われる。今回の発表に加えて、さらに調査・分析が進められることが期待される。

003「空間の自己化とその表出に関する研究 その8」（松田、加藤）精神に病みを持つ若者達と那些人達が住まう部屋のインテリア空間との関連性について考察し、インテリア空間の側から解決への手がかりを探ろうとする調査研究である。調査結果の分析から、ひきこもりのインテリアと虐待された者のインテリアに関して、その対極的な特性を指摘している。

004「空間の自己化とその表出に関する研究 その9」

（加藤、松田）インテリア空間に自己がそのように表出されているのかをみることによって、精神の病みの症状を掌握しようとする試みである。「その8」での調査結果の分析をふまえた考察であり、ひきこもりの人の場合は、自己を主張できるようなインテリアを自らの手で創ることが必要であると提案され、虐待を受けた人のインテリアはそれをそのまま全面的に受け入れることによって、その人の心を救うという提案がなされている。

サンプル数が8件と少ない事、精神の病みを持つ人と、オタクと呼ばれる人やもっと犯罪に近寄っている人、また、引きこもりのレベルによる違いや影響に関する質疑があった。また虐待という「原因」とひきこもりという「結果」を対比してよいのかという点もあげられた。

「精神の病み」という難しい対象であり、課題も抱えているが、インテリアの側から精神の病みに対してできることは何かを積極的に探る事の意義は大きく、非常に興味のあるところである。

005「平面的ズレを伴う2居室の空間形状意識」（前田、松本）2つの居室を平面的にずらすことによって生じる空間形状意識とズレ居室の物的形状との関係性を明らかにする研究であり、ズレ居室の空間形状意識を8つに分類し、視点位置、つながり幅、天井高等から分析して、つながり幅の影響が最も大きいとまとめられている。

ずらし方が意図的であるため、当たり前の様な結果とも言えるのではないかという意見が述べられた。今回は基礎的な部分の検証ということであり、今後の微妙なずらし方を対象とした研究への進展が望まれる。

（座長：ペリー史子）

### □計画（2）

住宅・インテリア計画の現代的問題を取り上げている5編である。

006沢田他2は高齢社会における子育て以降のセカンドステージを対象としたライフスタイル研究である。自立的生活行動の可、不可や人間関係、関心事などを指標にファーストステージと比較対照しながら、高齢者にとっての都心居住の魅力を明らかにしている。これまでのライフスタイル研究と比較することで研究の枠組みが明快にとらえられており、今後の発展が期待される。

007と008渡辺・高橋他2は吹き抜け空間の物理的性状と使われ方からそこに生じる「ぶち空間」に着目しその質と空間まわりでの生活行為を明らかにした研究である。テーマの捉え方が面白く興味を感じたが、吹き抜けの図面表現が平面と断面で統一できていない？ため、幾つかの疑問が残る。何度読んでも理解できない部分がある。ぶち空間の問題にあわせて、吹き抜け部の形状による心理効果や空間構成のあり方を追求できればさらに興味深い。

009黒木他2は収納量を適正に把握するために収納壁面積を指標として用い、収納しきれていない物品の床面積を併せて調査しておくことで必要収納量の目安を算定する方法を検討している。収納の問題は永遠の課題であり、個人や家庭による差が益々拡大しているように思える。従来からの標準化では対応しきれないのが実態である。多様なライフスタイルを認めた個別の必要量算出指標は実用面からも期待できる。

010横田他1は工業化住宅メーカーが過去に全国で供給した415棟の住宅の和室を取り上げて、その有無や平面図から読みとれる間取りと仕様レベルの情報について検討したものである。資料として住宅のハード内容だけが扱われているため居住者像がつかめず計画として位置付けにくい。家族構成などに対応して見ることができない点が残念である。

(帝塚山大学 北浦かほる)

## ■運営委員会だより

### □論文委員会

委員長 直井英雄 (東京理科大学)

論文報告集第17号につきましては、例年同様若干遅れてしまいましたが、やっと審査が終わり、遅くとも連休明けには発刊できることになりましたので、ご報告いたします。

この巻頭に掲載の募集規程および原稿執筆要領ですが、前会報で予告した改訂が加えられておりますので、ご確認ください。すなわち、原稿の提出期限が11月末日になっており、また、連続する2編以上の論文の応募が認められなくなっています。(もちろん、2編以上の論文であっても、それぞれが独立した論文であれば応募できます。)それ以外は、内容に関わる大きな変更はありません。本年も、ふるってご応募ください。

### □広報委員会

委員長 湯本長伯 (九州大学)

広報委員会活動としては、下記3点を報告します。

1) 事務ホームページの更新(5回)を行った。HPの空白ページについて報告すると、委員会:総務・国際、研究部会:生産流通、支部:九州以外の全支部については、直接の情報提供を戴いていないため、ページを情報で埋めることが出来ていない。是非とも一度それぞれチェックして戴き、内容についてのご意見と最新情報を賜りたいと思います。

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/index.html>

2) 会報39号を発行(編集長:白石光昭/小山高専)、年報号として。

3) 編集委員会へのご意見は、

JASISeditor@yahoogroups.jp までお送り下さい。

### □国際委員会

委員長 加藤 力 (宝塚造形芸術大学)

### □総務委員会

委員長 上野義雪(千葉工業大学)

## ■支部だより(年度報告等)

### □北海道支部

支部長 渋谷邦男

支部評議員の間で活動に関して種々検討を行ったが実施に至らなかった。大学等によるインテリア関連分野の研究発表がこのところ低調で、研究活動の活発化が望まれる。

### □東北支部

支部長 若井正一(日本大学)

平成18年度の支部総会は、平成18年11月22日(水)に、日本大学工学部(福島県郡山市)において開催しました。当日は、一般公開による特別講演会や第2回目となる支部研究発表会などを開催しました。その主な内容を下記にご報告いたします。

#### ◇特別講演会

演題:「マイ・デザイン・コンシャス(私のデザイン感覚)」

～鳥の声を聞く道具から宇宙ステーションまで～

講演者:尾登 誠一氏(東京藝術大学デザイン科教授)

日時:平成18年11月22日(水)

場所:日本大学工学部 新教室棟 五十嵐ホール

\*300席ある講演会場は、立ち見席が出るほどの盛況でした。同講演会終了後、盛大に懇親会が開催されました。

#### ◇東北支部・第2回研究発表会

日時:平成18年11月22日(水)

場所:日本大学工学部 新教室棟(7063教室)

発表演題(5題)と発表者:

・建物内で発生する日常災害に関する一考察

～乳幼児の家庭内事故について～

○岡本 啓（日本大学大学院）、若井正一

・共有空間「共堂」を内包した新たな集住の提案

○尾登敬樹（日本大学大学院）、若井正一

・機構とかたちに関する研究

～一挙に展開、変形し空間に変化をあたえるもの～

○手島信洋（東北芸術工科大学大学院）、鈴木敏彦

・平面から立体へ展開する構造に関する研究

～形状記憶合金を用いた構造（その1）～

○石川宗孝（東北芸術工科大学大学院）、鈴木敏彦

・福島県インテリアコーディネータ倶楽部の活動報告

○渡部きぬ子（福島 IC 倶楽部会長）

東北支部は、平成12年に東北芸術工科大学（山形市）で設立総会が開催されて以来、支部事務局が同大学に置かれていました。その後、事務局の管理は、初代支部長の日原もとこ先生から、副支部長の鈴木敏彦先生にバトンタッチされてきたところですが、鈴木先生が首都圏の大学へご栄転されることとなり、この4月より東北支部事務局を日本大学工学部（郡山市）へ移転いたしました。

この度の事務局移転を機に、更なる支部の活性化に向けて尽力する所存ですので、本会会員諸兄のご指導、ご鞭撻をどうぞ宜しくお願い申し上げます。なお、支部事務局の詳しい連絡先は、下記に示すとおりです。

\*\*\*\*\*

東北支部の新事務局：

〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中河原1

日本大学工学部建築学科 人間環境デザイン研究室

電話：024-956-8750 Fax：024-956-8750

E-mail：wakai@arch.ce.nihon-u.ac.jp

\*\*\*\*\*

## □北陸支部

北陸支部長 小松暁一（金沢美術工芸大学）

平成18年度は、講演会「資生堂とまちづくり」（平成18年6月26日）開催した。

以下は、次年度の事業計画である。

### 1. 講演会 演題『イタリアにおけるアートと町づくり』

講師：宮下 孝晴（金沢大学 美術教育講座 教授）

略歴：1949年1月生まれ。

1973年 東京学芸大学教育学部卒業。

1983年 イタリア国立フィレンツェ大学教育学部  
美術史学科卒業。

日時：平成19年5月11日（金）17：00～18：30

会場：金沢ニューグランドホテル

後援：石川県インテリアデザイン協会

### 2. 能登半島地震調査研究（予定）

目的：3月25日（日）午前、能登で発生した地震によ

って影響を受けた家屋の室内空間の意識調査を行い、地震に対する空間・収納機能のあるべき要点を探り、安全なインテリアの構築に役立てることを目的とする。

現地調査時期：平成19年8月を予定

現地調査地域：輪島市門前町および穴水町

## □関東支部

支部長 岡田 悟（共立女子短期大学）

### 1. 見学会・セミナー「日立ハウステック結城工場」

場所：㈱日立ハウステック結城工場（茨城県筑西市江連1250）

日時：平成18年8月2日（水）

### 2. 講習会「ホームページとブログ入門」

場所：横浜市立横浜総合高校（横浜市中区翁町2-9-10）

日時：平成18年11月25日（土）、12月2日（土）、  
12月16日（土）

### 3. 支部ニュース8号、平成19年2月26日発行

## □東海支部

支部長 建部謙治（愛知工業大学）

（支部総会後に報告予定）

## □関西支部

支部長 北浦かほる（帝塚山大学）

### 1. 白鷹緑水苑及び、旧辰馬喜十郎住宅見学会（平成18年5月20日）

### 2. 関西支部所属会員の調査（平成18年8月）

### 3. 18年度大会開催への支部会員支援（平成18年9～10月）

## □中国四国支部

支部長 大森豊裕（近畿大学）

### 1. 支部総会報告

平成18年6月10日に支部総会を行い、支部役員・活動計画を承認した。また、その会場で、中四国支部で平成17年度に表彰を行った卒業設計優秀作品5点を展示した。

### 2. 活動報告

#### ①定例総会時の講演会

「言葉のものづくり」 灰山彰好 氏

平成18年6月10日・広島市まちづくり市民交流プラザ・参加者：31名

#### ②ミニレクチャー

・第7回 「日本の美学と現代商業施設の精神的融合」  
広島の街が面白くない理由

木地保隆 氏

(株式会社きじインテリア代表取締役)

平成 18 年 5 月 12 日・広島市まちづくり市民交流プラザ・参加者：37 名

- ・第 8 回 「模型制作の手法」 西村正弘 氏  
(N Design)

平成 18 年 6 月 30 日・広島市まちづくり市民交流プラザ・参加者：69 名

### ③見学会

「－石見銀山－ ものづくりの思想と文化に迫る」

講師：松葉登美 ((株)石見銀山生活文化研究所・群言堂デザイナー)

渡部孝幸 (大田市建設部都市計画課・鏝絵博士)

平成 18 年 11 月 18 日・参加者：33 名

### ④卒業設計優秀作品支部表彰

- ・「Commusic (コミュニック)」

小川智香 (広島国際大学・社会環境科学部・住環境デザイン学科)

- ・「KURASHIKI BAMBOO STREET」

岡野貴臣 (川崎医療福祉大学・医療福祉マネジメント学部・医療福祉デザイン学科)

- ・「Project C (Project Cafeteria) 一時を楽しむ Cafeteria」

梅崎晋蔵 (近畿大学・工学部・建築学科)

- ・「various life」笹江章弘 (広島工業大学・環境学部・環境デザイン学科)

- ・「カベカミノイエ」井内紗恵 (岡山県立大学・デザイン学部)

- ・「広島そごう再生計画」石原優介 (広島大学・工学部)

## □九州支部

支部長代行 湯本長伯 (九州大学)

20 人しかいない支部会員にご案内を出し、3 月 26 日(月)・15 時より支部会を開催致しました。

ご提案としては、支部名簿の作成 (どのような人が会員なのかを共有する)、支部メイリングリストの作成 (相互に連絡を可能且つ密な情報交換を可能にする) など(近藤正一氏) が挙げられました。また見学会を企画するなど、活動をすることが大切 (近藤正一氏・岡島達雄氏・森永智年氏) との意見もありました。いずれも貴重なご意見であり、早速に実行に移す所存です。

また日本建築学会大会 (九州) が、8 月に福岡大学で開催されることに伴い、「九州大学の新しいキャンパスと建築 (設計：石田壽一) + 日田市民会館 (設計：香山壽夫)」見学会を開催致します。(日程案は下記のとおり。) 詳しくは、今後のホームページで。

(<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymt/lab/JASIS/kyus.html>)

なお九州支部の活性化について、支部会員の方からご意見と企画を戴きました。一つ一つ、着実に進めて行きたいと思います。

## 1. 「インテリア学会九州支部の活動について」

(岡島達雄)

支部の活力(質量)を高めることが、九州のインテリア界にとって、また学会全体から見て必要です。湯本先生のご提案のように、大会などのイベントの開催がそのきっかけとなるかもしれません。たとえば歴史部会のように、九州－福岡－九州大学に事務局をおく本部委員会があってもよいのかもしれませんが。今の時期、賛助会員を集めることは難しいのですが、時にそのことが支部活性化につながるかもしれません。支部は、講演会、見学会、講習会など、支部所属の会員とその地域に定期的に貢献する何かを持たないと活性化できません。

## 2. 「インテリアデザインにおける竹工芸の可能性」

(近藤正一 (日本文理大学))

近年、国際的に活躍されている別府の若手竹職人、大橋重臣氏による講演会を企画いたします。大橋氏は、これまでにアメリカのホテル等における数々の照明制作や愛知万博パビリオン等における竹のオブジェをはじめとする多くの竹工芸によるインテリアデザインに関わってこられました。現在はペニンシュラホテルの一部を施工中です。秋には近藤研究室等との協同による竹の仮設構造物展を予定しています。これまでの伝統工芸の領域にとらわれない意欲的な活動を紹介していただくことにより、いわばネオ・ヴァナキュラーともいえるインテリアデザインの新しい可能性を示唆するものと思われます。

「支部会員のネットワーク」:特段の意見はございませんが、メイリングリスト (あるいは支部会員名簿) などを配布していただければ、支部会員であることの意義が増すと思います。見学会などを企画いただければ、参加したいという気持ちはあります。

## 3. 「Web を活用したインテリア 3D ページ作成のワークショップ」 (森永智年 (九州ポリテクカレッジ))

インテリア Web ページの訴求性を高めるため、インテリア空間をよりリアリステックに体験してもらうために、Web を活用したインテリア 3D ページ作成のワークショップを企画します。

3 次元インテリア空間を自由に歩き回り、気に入ったインテリアエレメントをダブルクリックすると詳細な情報にリンクする。また、テキストボタンをクリックすると壁やフローリングのテキストが入替わったり、ソファ等のモノを変更するなど Web サイトを訪れた利用者が簡単にインテリア空間をシミュレーションで

きる Web ページを作成します。

\*\*\*\*\*

8月27日(月)

11:30頃 福岡空港着(東京・大阪・中部、等々から)  
12:00 昼食(稚加栄/赤坂)  
13:00 出発(マイクロバス等、車両に分乗)  
13:40~50 伊都キャンパス会場・ビッグオレンジ集合  
13:50~14 開会(湯本:広報委員会、九州大学)  
14:00~14:30 伊都キャンパス概要(湯本)  
14:30~15:00 Bオレンジ、ルネットの設計について(石田壽一:九州大学教授)  
(国立大学における情報発信拠点の形成)  
15:00~16:00 見学  
16:00~16:20 質疑応答(ビッグオレンジ)  
16:30~17:00 大橋キャンパスに移動  
17:00~17:45 見学(特にルネット+デザイン総合部門)  
18:30~19:00 日田に移動(ホテル各室にチェックイン)  
19:15~21:00 懇親会(サッポロビール園)

8月28日(火)

9:30~10:00 開場(シンポジウム会場:日田市民会館)  
10:00~10:10 開会(湯本:広報委員会、九州支部長代行、九州大学)  
10:10~11:00 設計趣旨(香山壽夫)  
11:10~11:30 市民と共に創る集いの場  
(池田靖史:九州大学客員教授・慶応義塾大学)  
(石田壽一:九州大学教授)  
11:30~11:50 質疑応答  
12:00~12:40 討論 コメンテーター 池田・石田・湯本(九州大学)  
13:00~14:00 昼食  
14:00~15:00 天領日田・豆田地区町並み見学  
15:30 移動  
16:00~18:00 大宰府(天満宮、国立博物館、政庁跡)  
18:00 移動  
18:30 解散(天神)

## ■研究部会だより

### □歴史部会

部会長 内藤 昌(愛知産業大学)  
代表幹事 河田克博(名古屋工業大学)

見学会・講演会を計画していたが、諸般の事情により、次年度に延期となった。  
幹事会を10月29日宝塚造形芸術大学梅田キャンパス(大会会場)にて実施した。

### □生産流通部会

部会長 大谷文行

### □計画・構法部会

文責 湯本長伯(九州大学)

会員からの提案としては、原稿執筆時点ではまだ締切になっておらず、学生向けコンクール企画を1件(金堀先生)を、戴いています。今後に期待したいと思います。いずれにせよ当研究部会では、他部会とも協力しながら、この新しいカテゴリーの事業を開始したいと思いますので、締切後でもA4版1ページ程度に提案をまとめて戴き、メールまたはFAXにてお送り下さい(JASISeditor@yahogroups.co.jp、または、FAX 092-553-9450)。その他のご意見についても、何卒宜しくお願い申し上げます。

### □人間工学部会

部会長 白石光昭(小山高専)

昨年は、計画・構法部会と共催の形で、7月12日に研究会(「インテリア空間と家具~学校用家具の現在と明日を考える~」)を開催しました。この研究会は会長からの発案で開催し、多くの方に参加していただきました。しかし、これ以外には独自の研究会を企画・開催できませんでした。大変申し訳なく思っております。できるだけ定期的に研究会または見学会を開催していきたいと考えておりますので、会員の皆さんからご協力をいただきたいと考えております。

### □教育部会

部会長 見城美子(女子美術大学)

1)「インテリアを学んだ学生の進路に関するアンケート調査」

前年度から引き続き「教育機関」「企業」「卒業生」を対象に卒業生の進路調査を進めています。18年度内におおむね回収、集計、を終えました。昨年の大会時には「アンケート調査報告その1:アンケート調査の概要と経過」として発表しました。19年度には論文としてまとめるべく、作業を続けています。

#### 2) 教育部会シンポジウム『インテリアを学んだ学生の進路と企業の採用について』

日時：平成18年10月29日(日) 16時-17時

場所：宝塚造形芸術大学梅田キャンパス

一昨年、昨年に、「わが校のインテリア教育の特徴」と題して、大会時にシンポジウムを、開催し、現状の報告をとおして、現在、インテリア教育が抱える課題を考えてきましたが、今年度はアンケート調査とも絡め、「インテリアを学んだ学生の進路と企業の採用について」をテーマにして開催しました。「今、企業の求める人材」とは何か、社会の要請に対して、教育現場では何をすべきか、また、何が出来るかなどを「企業」「教育機関」「卒業生のパネラー」にそれぞれの立場で話を伺い、参加していただいた皆様からも問題提起や活発な意見交換がされました。

#### 3) 「第13回卒業作品展」の開催

日時：平成18年10月28日、29日

場所：宝塚造形芸術大学梅田キャンパス

21校、28名の参加を得て、「第13回卒業作品展」開催しました。今回は大会開催校より、「賞」を出していただきました。大会実行委員会に選考委員会を設置し、審査を行い、「最優秀作品」1点、「優秀作品」4点が選ばれました。今後は「学会賞」として位置づけに向け、理事会でご検討いただければと思います。

#### 4) 18年度幹事会

今年度は「アンケート調査」に関する議事を中心に会議を重ねました。

第1回 平成18年7月8日(土)

2回 8月5日(土)

3回 9月30日(土)

4回 12月9日(土)

5回 平成19年3月16日(土)

6回 5月19日(土)

#### □住宅部会

部会長 直井英雄(東京理科大学)

昨年4月24日に研究会(「建築の事故と法—基準法だけでは足りない」)を開催してから、活動が途絶えております。これもひとえに部会長の怠慢と、申し訳なく思っております。近々、これに連続する研究会を開催したいと考えております。

#### □CAD部会

部会長 川島平七郎(東横学園短期大学)

1. CAD資格制度の検討(平成18年度大会にて発表)
2. 講習会「ホームページとブログ入門」の開催  
(H18.11.25から3週、関東支部と共催)

#### ■理事会議事録

##### □平成18年度第2回理事会議事録

記録：上野義雪

日時：平成18年10月29日(日)12:10~13:00

場所：宝塚造形芸術大学 梅田キャンパス  
7号館703室

出席者：高橋鷹志、岡島達雄、加藤 力、内藤 昌、小宮容一、西出和彦、小原 誠、沢田知子、北浦かほる、木村戦太郎、栗山正也、直井英雄、湯本長伯、松本吉彦、松本直司、渡辺秀俊、若井正一、建部謙治、田辺麗子、川島平七郎、大森豊裕、佐戸川清、長山洋子、白石光昭、上野義雪(宮本)(順不同、敬称略)

進行：白石

記録：上野

配布資料：

1. 平成18年度第2回理事会議事資料(上野)
2. 平成18年度第1回理事会議事録(長山)
3. 平成18年度総会議事録(上野)
4. 入退会者リスト(西出)
5. 日本インテリア学会論報告集の改革について(直井)
6. キャンパス・インテリア・コンクール(湯本)

議事：

1. 高橋学会長の挨拶
2. 加藤実行委員長の挨拶
3. 論文報告集の改革について(直井論文審査委員会委員長)
  - ・審査体制：委員長/直井、委員/松本 加藤 西出
  - ・連続する2編以上の扱い：その1、その2、独立したタイトルとする
  - ・投稿締め切り：10月末を変更し、11月末とする
4. 次年度大会について(松本)
  - ・大会委員長：建部(愛知工業大学)、実行委員長：松本(名古屋工業大学)
  - ・会場：明治村を検討中
  - ・会期：10月6~7日

5. 入退会者について
  - ・入会 20 名 退会 12 名 について承認
  - ・正会員数 492 名 準会員 39 名 賛助会員 22 口
6. 支部活動について
  - ・各支部会員リストの配布希望（建部）
  - ・名簿の整備中、会員に確認がとれない場合には、自宅住所を所在地としたい（西出）
7. 部会活動について
  - ・卒研賞を大会実行委員会で実施、学会内の委員会による実施を希望、明文化する
8. AIDIA 関連について
  - ・韓国にて開催、加藤理事の出席
  - ・ゲストスピーカーに鈴木先生
  - ・日本から論文 4、作品 3 点の提出
9. キャンパス・インテリア・コンクールについて（湯本）
  - ・資料 6

## ■平成19年度総会について

事務局長 西出和彦（東京大学）

本年度の総会を下記日程で行います。また、当日はシンポジウムも予定しておりますので、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成 19 年 6 月 9 日（土）午後 1：00 より

- 1) 理事会・評議員会 11：00～12：00（15号教室）
- 2) 総会 13：00～14：00（15号教室）
- 3) フリートーキング 14：00～14：30（15号教室）
- 4) シンポジウム 14：30～17：30（15号教室）

テーマ：「インテリア空間と家具その 2

～オフィスのインテリアと家具の今後～

1. 最近のオフィス作りの考え方
2. 家具メーカーの取組み
3. オフィスインテリアの計画手法と評価手法
- 5) 懇親会 18：00～20：00（学生会館分館）

## ■編集後記

平成 18 年度の年報号として、会長、支部長、部会長、委員長の皆さんを中心に原稿を寄せていただきました。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた方に御礼申し上げます。

また、ご意見等をお持ちの一般会員の方からも原稿をお待ちしておりますので、ぜひお寄せください。会報を会員相互の情報交換の場として盛り上げていければよいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

なお大会座長講評について、前号発行までにペリー史子先生から原稿を載っていたにもかかわらず、広報委員会として適切な対応ができず、今号の掲載になってしまいました。広報委員会として、深くお詫び申し上げます。

（白石記）

### ■日本インテリア学会会報第39号（2007.5.10発行）

編集者：白石光昭  
 発行者：高橋鷹志（日本インテリア学会会長）  
 広報委員会：湯本長伯、平井康之、白石光昭、  
 渡辺秀俊

### ■事務局

日本インテリア学会  
 事務局長 西出 和彦  
 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1  
 FAX：03-5841-8515